

令和5年度事業報告

本報告は、定款第39条に基づき監事の監査を受け令和6年度第1回理事会（令和6年4月27日）にて承認を得ております。

公益社団法人日本栄養・食糧学会 令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）事業報告

<概要>

平成23年（2011年）9月1日の公益社団法人化からの第13期目として、4月1日より令和5年度の各事業をスタートさせた。5月12日に札幌コンベンションセンターで定時社員総会を開催し、令和4年度決算報告書の件につき議決するとともに、名誉会員・終身会員の推戴を行った。報告事項として令和5年度事業計画の件、同年度収支予算計画の件、令和4年度事業報告等の報告を承認した。また、規約類の改訂、新参与、および第78回大会会頭・第79回大会準備責任者が報告され、承認された。定時社員総会への代議員の出席率は73.2%（82名/112名）となった。

令和4年度事業報告、同年度決算書については令和5年6月26日に、また、令和5年度事業計画、同年度収支予算計画については令和5年3月31日に内閣府に報告した。

栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業（公1事業）として、次の活動を行った。北海道支部の担当による第77回年次大会を計画し、定時社員総会は5月12日に札幌コンベンションセンターにて開催し、その後、同日・同場所において、各賞授賞式・記念講演会が開催された。5月13日・14日の両日、札幌コンベンションセンターにおいて学術大会を開催した。参加者は、1,564名（正会員768名、非会員358名、学生会員385名）となり、非常に盛況であった。また、プレスリリースするための話題性の高い演題について、トピックス賞を設け、17名に賞状と副賞を授与するとともに、学生の優秀な発表を審査し、学生優秀発表賞として13名の学生に賞状と副賞を授与した。

また、2021年9月に東京で開催することが決まっていた第22回国際栄養学会議が新型コロナウイルス感染症の流行拡大により延期され、2022年12月6日～11日に、東京国際フォーラムで開催され、令和5年度に決算を終えて開催報告書を作成した。

支部事業については、全支部において、それぞれに相応しいテーマのもとに支部大会およびシンポジウム等を開催した。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業（公2事業）においては、引き続き日本栄養・食糧学会誌を効率的な編集方針のもとに定期的に刊行（第76巻2号～6号、第77巻1号）し、英文誌JNSV刊行においては、日本ビタミン学会とともに構成しているJNSV編集委員会が中心となって、平成30年2月からペーパーレス化を実施した結果、インパクトファクターも徐々に上がり、現在1.6となっている。令和2年末には、英文誌JNSVの編集にFANS(Federation of Asian Nutrition Societies)が加わり、国際展開が加速しつつある。

理事会を中心に、公益法人としてのガバナンスの向上、会員サービスの向上に努め、利益相反(COI)については、「栄養・食糧学研究の利益相反に関する指針」並びにその細則の改訂案について、本格運用を実施している。申告者の利便性向上の観点から、更なる制度改良を検討中である。また、年次大会参加者の利便性向上の観点から、講演要旨集のWeb公開を継続実施している。

加えて平成27年度に新設した技術賞の選考を行い、2件の授与を決定し、本学会における産官学連携のさらなる推進を図った。

若手会員の活性化を目指した事業の検討を、学会活動強化委員会を中心に進め、昨年度に引き続き、個人会員2名からの寄付を得て、若手研究助成の対象枠を3名とするとし、金額は50万円にするとともに、学生優秀発表賞を次年度も継続すべく準備を行った。

なお、第22回国際栄養学会議・組織委員会および学会創立75周年記念誌刊行委員会については、それぞれの事業が終了したことから、令和5年度第6回理事会で委員会の廃止が検討され、学会活動強化委員会に諮問された。令和6年4月に同委員会から廃止の答申が出され、令和6年度第1回理事会で両委員会の廃止が決議される予定である。

I 会員の動き

1) 会員の状況（令和6年3月31日現在）

名誉会員	35名
終身会員	167名
正会員	2,635名
学生会員	706名
団体会員	58件
賛助会員	64件（75口）
学会誌定期購読団体	91件

2) 令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）物故会員（敬称略）

名誉会員：奥田 拓道、香川 芳子、五島 孜郎、本間 清一、武藤 泰敏
終身会員：入谷 信子、大谷 八峯、岸野 泰雄、西明 眞理、榊原 文作、外川 嘉子、竹内 久直、土佐 哲也、
西村 薫子、晴山 信一、前田 安彦、松下 雪郎、松田 源治、光岡 知足、山西 貞、渡辺 孟
正会員：小笠原理紀、津田 謹輔、渡辺 由美

3) 支部別会員数 令和6年3月31日付

支部名	名誉会員	終身会員	正会員	学生会員	団体会員	賛助会員 [口数]
北海道支部	0 (± 0)	7 (± 0)	96 (+ 5)	30 (+ 1)	1 (± 0)	1[1] (± 0)
東北支部	3 (± 0)	11 (± 0)	140 (- 3)	28 (+ 1)	1 (± 0)	0[0] (± 0)
関東支部	16 (- 3)	65 (- 2)	971 (-17)	178 (+ 6)	31 (+ 1)	51[62] (- 3)
中部支部	2 (± 0)	15 (- 2)	335 (± 0)	96 (+ 8)	4 (± 0)	3[3] (± 0)
近畿支部	6 (+ 1)	47 (+ 2)	604 (± 0)	214 (+26)	9 (± 0)	7[7] (± 0)
中国・四国支部	2 (± 0)	12 (- 3)	262 (-11)	96 (- 5)	9 (± 0)	2[2] (± 0)
九州・沖縄支部	6 (- 1)	10 (- 3)	224 (- 5)	62 (+11)	3 (± 0)	0[0] (± 0)
海外	0 (± 0)	0 (± 0)	3 (- 1)	2 (+ 1)	0 (± 0)	0[0] (± 0)
合計	35 (- 3)	167 (- 8)	2635 (- 32)	706 (+49)	58 (+ 1)	64[75] (- 3)

() 内は令和5年3月31日会員数に対する増減を示す。

II 各種事業活動の推進報告

<栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業 (公1) >

1) 大会事業

(1) 第77回日本栄養・食糧学会大会の開催 (会頭 園山 慶 北海道大学大学院 教授)

令和5年5月12日 (金) (札幌コンベンションセンター) 総会・受賞者講演

令和5年5月13日 (土)、14日 (日) (札幌コンベンションセンター)

特別講演・教育講演・シンポジウム・市民公開シンポジウム・ランチタイムセミナー・一般演題・学生優秀発表賞審査

一般講演 641題

参加者数 1,564名

特別講演

「食と健康に関する疫学研究」

玉腰 暁子 (北海道大学大学院医学研究院)

「プレジジョン栄養学の展望」

加藤 久典 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

(2) 支部事業

①北海道支部

*第53回日本栄養・食糧学会北海道支部大会 (日本農芸化学会北海道支部との合同大会)

令和5年8月5日 (土) とかちプラザ (帯広市)

テーマ: 「油脂 (あぶら) で紐解く農芸化学の世界」

「グルコシルセラミドと腸内細菌の相互作用」

北垣 浩志 (佐賀大学)

「植物や真菌におけるグルコシルセラミドの機能~グルコセレブロシダーゼを介した植物の新しい乾燥耐性機構~」

古賀 仁一郎 (帝京大学)

「植物脂質成分を活用した機能性食品素材の実用化と機能性表示 - 食品工場副産物の活用事例を含めて -」

間 和彦 (ニッポン中央研究所)

「酸化コレステロールの生理的意義」

佐藤 匡央 (九州大学)

「エゴマ (油) の機能性の検証~ヒト介入試験成果」

橋本 道男 (島根大学)

参加者数 67名

一般講演 30題 (ポスター発表)

②東北支部

*第57回日本栄養・食糧学会東北支部大会および公開シンポジウム (日本食品科学工学会東北支部との合同支部大会)

令和5年11月11日 (土)、12日 (日) 岩手大学

世話人代表: 太田 徹 (盛岡大学) 伊藤 芳明、西向 めぐみ、小出 章二、折笠 貴寛 (岩手大学)

公開シンポジウム

テーマ: 「食へのニーズを俯瞰する~食品物性から代謝調節機能まで~」

「イソマルトメガロ糖によるフラボノイド吸収促進とその作用機序」

原 博 (藤女子大学)

「油脂を食べて肥満を制御するには?」

金子 賢太郎 (明治大学)

「日本の微生物発酵茶について」

内野 昌孝 (東京農業大学)

「食品物性と食べる人・食べ方との関わり」

神山 かおる (農研機構)

参加者数 62名 (内 非会員 23名)

一般講演 25題

③関東支部

*第111回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

令和5年10月14日 (土) Zoom 開催

世話人: 青江 誠一郎 (大妻女子大学)

テーマ: 「食品成分による消化管機能調節研究の最前線」

「食品成分による消化管ホルモン分泌の調節」

比良 徹 (北海道大学大学院)

「食物繊維由来多糖の化学構造を介した小腸絨毛の機能調節」

矢部 富雄 (岐阜大学大学院)

「大豆イソフラボンの食欲抑制効果と消化管の関係 -大豆イソフラボンはルミナコイド?-」

岸田 太郎 (愛媛大学大学院)

「大腸エコシステムを制御する因子としてのビタミン B₁₂の可能性」

西村 直道 (静岡大学学術院)

「宿主と腸内細菌叢のクロストークを媒介する microRNA」

園山 慶 (北海道大学大学院)

参加者数 80名 (内 非会員 45名)

*第112回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

令和6年3月9日(土) 女子栄養大学

世話人: 上西 一弘 (女子栄養大学)

テーマ: 「ビタミン・ミネラル研究の道標—食事摂取基準から考える—」

基調講演「ビタミン・ミネラル領域におけるヒト対象研究の意義」

田中 清 (静岡県立総合病院)

「食事摂取基準におけるビタミン策定の課題」

乗原 晶子 (大阪公立大学)

「食事摂取基準における多量ミネラル策定の課題」

上西 一弘 (女子栄養大学)

参加者数 35名 (内 非会員 19名)

*第26回健康栄養シンポジウム

令和6年2月17日(土) お茶の水女子大学

代表世話人: 板倉 弘重 (茨城キリスト教大学)

世話人 飯田 薫子 (お茶の水女子大学)

テーマ: 「人体最大器官<皮膚、血管、骨格筋>の健康維持と栄養」

岸本 良美 (摂南大学)

「ポリフェノールと動脈硬化予防~摂取量調査からみえてきた可能性」

井上 菜穂子 (日本大学)

「脂質の変動から紐解く骨格筋肥大メカニズムの解明」

大石 祐一 (東京農業大学)

「食品成分による皮膚の健康維持」

財満 信宏 (近畿大学)

「血管の健康を破綻させうる因子と破綻を予防しうる食品成分」

細山 徹 (国立長寿医療研究センター研究所)

「ビタミンD欠乏とサルコペニア・フレイルリスク」

参加者数 77名 (内 非会員 53名)

④中部支部

*第82回日本栄養・食糧学会中部支部大会

令和5年11月11日(土) 名古屋学芸大学 名城前医療キャンパス

日本栄養・食糧学会学会賞受賞講演会

「時間生物学的アプローチによる生活習慣病予防を目指した分子栄養学研究」

小田 裕昭 (名古屋大学大学院)

特別講演

「タンパク質・アミノ酸欠乏時の代謝制御における内分泌因子の役割」

竹中 麻子 (明治大学)

参加者数 69名 (内 非会員 19名)

一般演題 22題

⑤近畿支部

*第62回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

令和5年11月11日(土) 近畿大学

会頭: 森山 達哉 (近畿大学)

公開特別講演「栄養・食糧学の研究成果を社会実装するために—具体例から学ぶヒト試験と商品開発」

「基礎研究からヒト臨床試験までの流れと実例」

落谷 大輔 (ビーエイチエヌ株式会社)

「基礎研究から商品開発までの流れと実例」

金 英一 (株式会社ファーマフーズ)

参加者数 226名 (内 非会員 98名)

一般講演 81題

*第14回栄養学を志す若手のためのフォーラム

令和5年11月12日(日) オンライン開催

テーマ: 「Q&Aで解決! 栄養学研究の実際とコツ」

基調講演

「機能性成分の機能性を調べたいとき(細胞編)」

増田 誠司 (近畿大学)

「機能性成分の機能性を調べたいとき(動物編)」

森山 達哉 (近畿大学)

「ヒトを対象とした試験をしたいとき」

明神 千穂 (近畿大学)

参加者数 60名 (内 非会員 37名)

⑥中国・四国支部

*第56回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会ならびに市民公開講座

令和5年10月21日(土)~10月22日(日) 徳島大学

実行委員長: 阪上 浩 (徳島大学大学院)

特別講演

「徳島発・香酸柑橘の機能性研究」

堤 理恵 (徳島大学)

「食用コオロギ研究の現状と社会実装に向けた取り組み」

三戸 太郎 (徳島大学バイオイノベーション研究所)

市民公開講座 「食と栄養の現在・未来」

「集中治療室での栄養学」

堤 理恵 (サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社)

「慢性腎臓病の食事」

脇野 修 (徳島大学大学院)

「食と腸内細菌の見えざる関係と健康未来」

国澤 純 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)

「宇宙栄養学から学ぶもの」

二川 健 (徳島大学大学院)

参加者数 89名 (内 非会員 18名)

一般講演 35題

⑦九州・沖縄支部

*2023年度日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会

(一社)日本家政学会九州支部第 67 回との合同大会

令和 5 年 10 月 14 日(土)、15 日(日) J:COM ホルトホール大分、大分大学旦野原キャンパス

市民公開講演会「情報技術を活用した食生活の未来」

「ゲノム編集育種で変わる養殖の世界」

木下 政人(京都大学大学院)

「味覚メディアが栄養食糧・家政にもたらす未来」

宮下 芳明(明治大学)

「プレジジョン栄養学 ~データサイエンスが拓く個別化栄養の現状と展望」

小田 裕昭(名古屋大学大学院)

参加者数 60 名(内 非会員 9 名)

一般講演 34 題

2) 大会事業準備

(1) 第 78 回日本栄養・食糧学会大会の開催(会頭 立花 宏文)

令和 6 年 5 月 24 日(金)

* 定時社員総会

* 授賞式、功労賞受賞者挨拶、受賞者講演

令和 6 年 5 月 25 日(土)~26 日(日)

* 特別講演 2 題

* 教育講演 5 題

* 国際シンポジウム 4 テーマ

* 医学系学会との合同シンポジウム 6 テーマ

* シンポジウム 15 テーマ

* 市民公開シンポジウム 3 テーマ

* 関連学会集会 6 学会

* 一般演題

(2) 第 79 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

令和 7 年 5 月 23 日(金)~25 日(日)

中部支部(会頭 小田 裕昭 名古屋大学)が開催担当支部として準備を進めた。

(3) 第 80 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

令和 8 年 5 月 15 日(金)~17 日(日)

中国・四国支部(大会準備責任者 松井 達博 香川大学)が開催担当支部として決定した。

3) 表彰事業および助成・助成推薦事業

本事業は、各種授賞等選考委員会並びに学会活動強化委員会を通じ展開された。

(1) 第 1 回各種授賞等選考委員会(12/16)が Web 開催され、令和 6 年度表彰の功労賞 3 件、学会賞 3 件、奨励賞 2 件、技術賞 1 件、栄養・食糧学基金研究助成対象者 2 件、栄養・食糧学基金若手研究助成対象者 3 件を推薦し理事会に上申した。

(2) 学会活動強化委員会活動としては、

① 学術企画の支援として学会活動強化費申請(4 件)のメール審査を行い、全て承認した。

② 栄養・食糧学基金研究助成・若手研究助成の審査を行い、各種授賞等選考委員会へ報告を行った。

③ 学生優秀発表賞の応募、選考を行った。

(3) 令和 5 年度表彰授与式開催

① 令和 5 年度受賞者

功労賞 3 件 下村 吉治 鈴木 和春 寺尾 純二

学会賞 3 件 小田 裕昭 佐藤 匡央 藤原 葉子

奨励賞 3 件 井上菜穂子 田辺 賢一 山根 拓実

技術賞 2 件 キリンホールディングス株式会社(阿野 泰久、福田 隆文、金留 理奈)

株式会社ダイセル(卯川 裕一、工藤 眞丈、沢田 翔一、石輪 俊典、中島 賢則)

② 令和 5 年度栄養・食糧学基金研究助成者

栄養・食糧学基金研究助成 山内 祥生 小林 美里

栄養・食糧学基金若手研究助成 金森 耀平 田中 誠也 藤井 靖之

③ 学生優秀発表賞 13 件

④ トピックス賞 17 件

(4) 令和 6 年度対象の各賞候補者の公募、栄養・食糧学基金の研究助成・若手研究助成対象者募集記事を学会誌第 76 卷 4

号、ホームページ及びメールニュースに掲載した。栄養・食糧学基金 国際交流助成令和 5 年度後期の募集を学会誌第 76 卷 3 号・令和 6 年度前期の募集を 76 卷 6 号、ホームページ及びメールニュースに掲載した。

(5) 表彰事業の協賛のため 2 企業・1 団体へ依頼し応諾された。

(6) 下記外部団体からの研究褒賞候補者推薦依頼・研究助成募集の周知を図った。

① 研究褒賞候補者推薦依頼

天野エンザイム(株)/酵素応用シンポジウム研究奨励賞 (公財)安藤スポーツ・食文化振興財団/安藤百福賞

(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団/飯島藤十郎食品科学賞&飯島藤十郎食品技術賞

(公財)上原記念生命科学財団/上原賞

ウェルネスライフジャパン実行委員会/ウェルネスフードアワード

(公財)SGH 財団/SGH 特別賞 (公財)木原記念横浜生命科学振興財団/学術賞

慶應義塾医学振興基金/慶應医学賞 (公財)小林財団/小林賞

(一財)材料科学技術振興財団/山崎貞一賞 (公財)食の新潟国際賞財団

(公財)杉浦記念財団/杉浦地域医療振興賞 (公財)住友生命健康財団/スミセイ女性研究者奨励賞

第一生命保険株式会社/保健文化賞 (一財)東京顕微鏡院/遠山椿吉記念健康予防医療賞

(公財)内藤記念科学振興財団/内藤記念科学振興賞 (一社)日本医師会/日本医師会医学賞・医学研究奨励賞
(独)日本学術振興会/日本学術振興会賞・育志賞
(公社)日本看護協会・ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ/ヘルシー・ソサエティ賞
(一財)バイオインダストリー協会/大賞・奨励賞 福井県小浜市/杉田玄白賞
(公財)三島海雲記念財団/三島海雲学術賞 (公財)森永奉仕会/森永奉仕会賞
文部科学省/表彰科学技術賞、若手科学賞及び研究支援賞

②研究助成募集の周知

(公社)アサヒグループ財団 (公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団
(公財)医療科学研究所 (公財)上原記念生命科学財団
うま味研究会 (公財)エリザベス・アーノルド富士財団
大麦食品推進協議会 (一財)旗影会
(一財)キャノン財団 公益信託家政学研究助成基金
国立研究開発法人海洋研究開発機構 国立研究開発法人科学技術振興機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) (公財)サッポロ生物科学振興財団
(一財)サンスター財団 (一社)Jミルク
白石科学振興会 (公財)杉浦記念財団
(公財)住友生命健康財団 (公財)ソルト・サイエンス研究財団
(公財)タカノ農芸化学研究助成財団 (一財)田沼グリーンハウス財団
築野食品工業株式会社 (公財)長寿科学振興財団
(公財)東洋食品研究所 (公財)内藤記念科学振興財団
(公財)ニッポンハム食の未来財団 (公財)日本科学協会
日本ゴマ科学会 (公財)日本食品化学振興財団
(公財)日本ヘルスケア協会 (独)農畜産業振興機構
(公財)ひと・健康・未来研究財団 (公財)ファイザーヘルスリサーチ振興財団
フォーデイズ株式会社 (公財)ホクト生物科学振興財団
(公財)本庄八郎記念お茶財団 抹茶と健康研究会
(公財)三島海雲記念財団 (公財)森永奉仕会
やずや食と健康研究所 (公財)山崎香辛料振興財団
(公財)山田科学振興財団 (公財)ロッテ財団

(7) 外部団体への推薦

①公益財団法人内藤記念科学振興財団

2023年度第55回内藤記念科学振興賞 各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦

②公益財団法人三島海雲記念財団

第13回(2024年度)三島海雲学術賞【自然科学部門】各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦

③公益財団法人山田科学振興財団

2023年度研究援助候補者 各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、2件を学会として推薦

(8) 研究活動の奨励

第77回大会時に下記関連学術集会を支援

- ①スポーツ栄養学研究会
- ②栄養学若手研究者の集い
- ③コラーゲンペプチド研究会
- ④第13回カルノシン・アンセリン研究会

4) 栄養科学・食糧科学に関する研究・調査事業

本事業は、下記2テーマで、健康・食品保健表示の検討は昨年度より常置委員会として、栄養・食糧学用語に関する検討は平成28年度より常置委員会としてそれぞれの委員会で展開された。

以下各テーマについて主な進捗を報告する。

(1) 健康・食品保健表示に関する検討

第77回日本栄養・食糧学会大会において「特定保健用食品の動向-疾病リスク低減表示を中心に」に関するシンポジウムを開催した。日本栄養・食糧学会75周年記念誌(pp183-184)において、本委員会の歴史を紹介するとともに今後の活動の方向性を示した。日本人の食事摂取基準(2020年版)の普及啓発を行った。

(2) 栄養・食糧学用語に関する検討

栄養・食糧学用語辞典(第2版)における見出し語ならびに説明文の検証を行い、ホームページへの改訂版掲載に向けて作業を行った。なお、用語委員長および副委員長についてはこれまで学会誌編集委員長及び副委員長が兼務していたが、令和6年度より兼務しないこととする。

5) 国際交流事業

(1) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS、アジア栄養学会連合) 関係

FANSと連携し、その事業(第14回アジア栄養学会議(2023年9月14日~17日)等)を支援した。

(2) International Union of Nutritional Sciences (IUNS、国際栄養科学連合) 関係

IUNSと連携し、その事業を支援した。また、日本学術会議IUNS分科会と共催し、第77回日本栄養・食糧学会大会において、Korean Society of Food Science and Nutrition (KFN、韓国食品栄養科学会)、Nutrition Society of Taiwan (NST、台湾栄養学会)との国際シンポジウムを開催した。

- (3) International Union of Food Science and Technology (IUFOST、国際食品科学工学連盟) 関係
IUFOST Japanと連携し、その事業(The 6th IUFOST-Japan, SCJ, and JSNFS Joint Webinar on Food Nutrition and Functionality (2024年3月15日)等)を支援した。
- (4) 東京栄養サミット関係
日本栄養学学術連合と連携し、東京栄養サミットで策定したコミットメントの実行に努めている。

6) 倫理審査事業

- (1) 倫理審査の実施
新規定に基づき設けられた新委員会における審査ならびにアドバイスが可能な体制が整った。2023年度は問い合わせ数件に対しアドバイスを実施したが、正式申請は無かった。
- (2) 倫理審査規程の随時改訂
従来の「倫理審査委員会に関する規程」を、わが国すべての人を対象とした生命科学・医学系研究が対象となる厚労省、文科省、経産省合同の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に適合させるように大規模改訂を実施した。

<栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業(公2)>

1) 出版事業の推進

本事業に関しては、日本栄養・食糧学会誌編集委員会が担当するとともに、JNSV刊行においては、日本ビタミン学会およびFANSとの共同編集として発刊した。これらの学術誌の発刊は、(一財)学会誌刊行センターに委託している。

- (1) 日本栄養・食糧学会誌 第76巻2号～6号、第77巻1号

①投稿状況

令和6(2024)年3月31日現在 投稿数(カッコは採択数)

受付日	投稿数	総説	報文	研究ノート	資料	速報	論壇	講座
令和4年4月～	0							
令和4年7月	2 (1)	1 (1) 注1	1 (0)					
令和4年8月	7 (6)	6 (6) 注1		1 (0) 注2				
令和4年9月	2 (2)	1 (1) 注1	1 (1)					
令和4年10月	6 (5)	5 (5) 注3	1 (0)					
令和4年11月	1 (1)		1 (1)					
令和4年12月	5 (4)	4 (4) 注4					1 (0)	
令和5年1月	0							
令和5年2月	3 (2)	2 (2) 注5			1 (1)			
令和5年3月	3 (1)	1 (1) 注6	1 (0) 注7	1 (0)				
令和5年4月	3 (1)	1 (1) 注6	2 (0) 注8					
令和5年5月	3 (3)	2 (2)	1 (1)					
令和5年6月	4 (2)	2 (2) 注9	1 (0)		1 (0) 注8'			
令和5年7月	3 (3)	3 (3) 注9, 10						
令和5年8月	8 (8)	8 (8) 注10, 11						
令和5年9月	3 (2)	2 (2) 注10, 11	1 (0) 注13					
令和5年10月	3 (2)	1 (1) 注11	1 (1)		1 (審査中) 注8'			
令和5年11月	2 (1)	1 (1) 注12		1 (審査中) 注13'				
令和5年12月	4 (4)	4 (4) 注12						
令和6年1月	1 (1)	1 (1) 注14						
令和6年2月	3 (1)	3 (1・審査中) 注14						
令和6年3月	2		1 (審査中)	1 (審査中)				

※ 採否が確定していない論文がある月：令和5年10・11月、令和6年2・3月

注1 75-6特集号「令和4年度各賞受賞」

注2 過去に種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿され審査していたが、著者により取り下げられた

注3 76-1特集号「76回大会シンポジウム3：栄養表示と日本食品標準成分表2020年版(八訂)との関連について」(4報)、76-3特集号「食品成分による消化管ホルモン分泌を介した生理作用」(1報)

注4 76-2特集号「栄養と脳」(4報)

注5 76-3特集号(2報)、依頼でない総説(著者により取り下げ)

注6 76-4特集号「ビタミン・ミネラルの代謝的運命を決定する酵素・トランスポーター」

- 注 7 種別変更（報文→資料）のうえでの再投稿を促しての不採択
 注 8, 8', 8'' 1 報は報文としては取り下げ、その後資料へ種別変更のうえで再投稿されたが大幅修正を促し一旦不採択、その後再投稿され採択
 注 9 76-5 特集号「骨そして筋肉の健康における栄養素・非栄養素の役割」
 注 10 76-6 特集号「令和 5 年度各賞受賞」
 注 11 77-1 特集号「食品タンパク質由来の健康機能性ペプチド研究の最先端」
 注 12 77-2 特集号「抗炎症が繋ぐ食品因子の慢性疾患予防」
 注 13, 13' 種別変更（報文→研究ノート）のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿され審査中
 注 14 77-3 特集号「ミツバチ産品：プロポリスの健康機能研究と栄養・食糧学」

<令和 4 (2022) 年度>

*投稿論文 10 編（依頼総説除く）：採択率 38%（依頼総説、講座、取り下げ除く）
 掲載可 3 編（審査日数 162 日） 掲載否 5 編（平均審査日数 30 日）
 取り下げ 2 編 審査中 0 編

*依頼総説 20 編（全編掲載可、平均審査日数 45 日）

<令和 5 (2023) 年度>

*投稿論文 8 編（依頼総説、講座除く）：採択率 50%（依頼総説、講座、取り下げ、審査中除く）

掲載可 3 編（平均審査日数 146 日） 掲載否 3 編（平均審査日数 51 日）
 取り下げ 2 編 審査中 5 編

*依頼総説 28 編

掲載可 26 編（平均審査日数 49 日） 審査中 2 編

②発行状況

巻号	総説	報文	研究 ノート	資料	速報	論壇	講座	論文計	書評
76-2	4							4	
76-3	3							3	
76-4	4	1						5	
76-5	4							4	1
76-6	8	1						9	
77-1	4			1				5	1
令和5年度計	27	2	0	1	0	0	0	30	2

③刊行状況

巻号	納本日	予定日
76-2	4月10日	4月10日
76-3	6月10日	6月10日
76-4	8月9日	8月10日
76-5	10月11日	10月10日
76-6	12月10日	12月10日
77-1	2月10日	2月10日

④編集委員会を令和 5 年 5 月 13 日に開催した。

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV)

①編集状況

日本ビタミン学会および FANS (Federation of Asian Nutrition Societies) との共同編集 Vol. 68No. 2~No. 6、Vol. 69No. 1 の刊行

JNSV編集委員会報告

2024年3月12日現在

理事会			分野別投稿数						分野別採択数						備考
資料提出日	Vol	年	Total	V	N	F	Review	Note	Total	V	N	F	Review	Note	
3月25日	69	2023	39	6	24	9	5	6	20	4	10	6	0	5	69-2まで
4月22日			69	13	40	16	8	14	28	7	14	7	2	5	69-3まで
7月22日			126	19	81	26	15	20	38	8	21	9	2	6	69-4まで
10月15日			173	29	111	33	18	27	48	9	27	12	2	9	69-5まで
12月31日			223	38	145	40	24	36	61	15	34	12	3	11	69-6まで
3月23日	70	2024	53	15	32	6	3	7	23	1	17	5	2	4	70-2まで

Total は、V、N、Fの合計。

(各号の内訳)							巻号
Total	V	N	F	Review	Note		
11	1	6	4	0	2		69-1
9	3	4	2	0	3		69-2
8	3	4	1	2	0		69-3
10	1	7	2	0	1		69-4
10	1	6	3	0	3		69-5
13	6	7	0	1	2		69-6
11	1	8	2	0	2		70-1
12	0	9	3	2	2		70-2

J.Nutr.Sci.Vitaminol. 原稿状況 (2023年12月31日現在)

Vol.61(2015)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	16	4	16	16	23	19	19	13	14	18	14	12	184
掲載数		No.1 15		No.2 14		No.3 12		No.4 10		No.5 11		No.6 13	75
Vol.62(2016)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	14	22	23	19	19	17	20	11	15	16	26	17	219
掲載数		No.1 11		No.2 10		No.3 8		No.4 10		No.5 14		No.6 9	62
Vol.63(2017)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	21	20	16	15	23	14	15	12	11	15	14	16	192
掲載数		No.1 11		No.2 9		No.3 9		No.4 9		No.5 10		No.6 11	59
Vol.64(2018)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	20	19	16	10	20	22	18	16	26	18	14	18	217
掲載数		No.1 11		No.2 10		No.3 11		No.4 11		No.5 11		No.6 12	66
Vol.65(2019)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	17	16	33	22	19	17	24	13	23	17	16	28	245
掲載数		No.1 15		No.2 15		No.3 10		No.4 10		No.5 12		No.6 12	74
Vol.66(2020)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	21	22	19	18	15	28	26	15	24	22	20	18	248
掲載数		No.1 13		No.2 15		No.3 11		No.4 15		No.5 15		No.6 13	82
Vol.67(2021)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	15	25	23	26	24	29	16	21	25	16	16	27	263
掲載数		No.1 10		No.2 11		No.3 8		No.4 6		No.5 12		No.6 9	56
Vol.68(2022)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	22	21	22	27	18	18	20	18	20	11	19	13	229
掲載数		No.1 10		No.2 10		No.3 11		No.4 14		No.5 15		No.6 10	70
Vol.69(2023)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	14	14	27	21	19	19	24	17	15	17	19	17	223
掲載数		No.1 11		No.2 9		No.3 8		No.4 10		No.5 10		No.6 13	61

JNSV投稿内訳および結果

Vol.	Year	Total No.*	V		N		F		R	Note		年間掲載数	頁
			投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数			
55	2009	165	23	10	112	56	30	12	1	28	16	78	538
56	2010	172	29	11	115	44	28	13	1	25	12	68	470

採択数・却下数（2023.12.31 現在）

論文提出日	2015/1/1-2015/3/30 (旧システム)	2015/3/31-2015/12/31 (新システム)	合計	採択率
採択数	14	31	45	
却下数	16	87	103	
合計			148	30.41%
注) 新システムでは採択率＝採択数/採択数＋却下数になります。				
論文提出日		2016/1/1-2016/12/31		
採択数		63		
却下数		120		
合計			183	34.42%
論文提出日		2017/1/1-2017/12/31		
採択数		60		
却下数		117		
合計			177	33.90%
論文提出日		2018/1/1-2018/12/31		
採択数		77		
却下数		106		
合計			183	42.07%
論文提出日		2019/1/1-2019/12/31		
採択数		76		
却下数		135		
合計			211	36.02%
論文提出日		2020/1/1-2020/12/31		
採択数		68		
却下数		164		
合計			232	29.31%
論文提出日		2021/1/1-2021/12/31		
採択数		58		
却下数		171		
合計			229	25.33%
論文提出日		2022/1/1-2022/12/31		
採択数		71		
却下数		151		
合計			222	32.00%
論文提出日		2023/1/1-2023/12/31		
採択数		65		
却下数		129		
合計			194	33.50%

②採択までにかかる期間が長すぎることもなく順調に編集作業が行われている。（インパクトファクターは1.6）

③編集委員の交代（5名）

2) 広報事業

本事業は、広報委員会を通じ展開された。

(1) 会員向け情報の告知

学会内の動き、関連学術団体、関連機関（大学・官庁等）からの情報、依頼記事（募集・告知等）について、広報推進を行った。

①ホームページ管理業務委託業者を通じ、定期的及び緊急的に情報を掲載

②会員向けメールマガジン「栄食ニュース」は1回/月のペースで発信

ホームページへの掲載の紹介及びタイムリーな記事掲載を行い、以下20号発信

2023-4(通算 282 号 4/13)、2023-5 (通算 283 号 5/8)、2023-6(通算 284 号 6/9)、2023-7 (通算 285 号 7/10)、2023-8 (通算 286 号 8/10)、2023-9 (通算 287 号 9/11)、2023-9 臨時号 (通算 288 号 9/20)、2023-10 臨時号 (通算 289 号 10/2)、2023-10 (通算 290 号 10/10)、2023-10 臨時号 (通算 291 号 10/16)、2023-11 (通算 292 号 11/10)、2023-12 (通算 293 号 12/11)、2023-12 臨時号 (通算 294 号 12/21)、2024-1 (通算 295 号 1/10)、2024-1 臨時号 (通算 296 号 1/11)、2024-1 臨時号 (通算 297 号 1/30)、2024-2 (通算 298 号 2/13)、2024-2 臨時号 (通算 299 号 2/26)、2024-3 (通算 300 号 3/11)、2024-3 臨時号 (通算 301 号 3/12)

③国内学術団体からの事業関連の連絡・通知

*日本学術会議

日本学術会議発行メールニュース (No. 837~No. 875) の周知の実施

*日本医学会

シンポジウム等の開催周知協力の実施

④第 77 回大会記者会見 (4/28、学士会館)

⑤第 31 回日本医学会総会分科会/加盟学会展示 (2023 年 4 月 1 日~30 日: 行幸地下ギャラリー) に本学会の紹介パネルを作成、出展

III 管理業務報告

(1) 内閣府からの通知・連絡対応

①内閣府より

*公益法人メールマガジン (第 166 号~第 190 号) 受理

*【公益法人 Information から】様式チェック結果通知(修正要) (6/19)

*【公益法人 Information から】様式チェック結果通知(提出可) (6/26)

*【公益法人 Information から】提出完了通知 (6/26)

*メール通知「事業計画書等の提出完了」(整理番号) の案内 (3/29)

②内閣府へ

*「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性の有無」を HP に掲載 (4/1)

*令和 4 年度事業報告 (6/26 オンライン提出)

*令和 6 年度事業計画書等をオンライン提出 (3/29)

*アンケート対応

(2) 文部科学省

*令和 5 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について (6/19HP 掲載)

(3) 厚生労働省

*医薬品・医療機器安全性情報報告制度の周知

*医薬品・医療機器安全性情報 No. 399~No. 408 の周知依頼

(4) 農林水産省

(5) 日本学術会議

①日本学術会議発行メールニュース (No. 837~No. 876) の周知

②4 月 5 日第 341 回幹事会 YouTube アドレスの御案内 (日本学術会議の在り方の見直しについて)

③会長メッセージ「学術の発展とより良い役割発揮のために、広く関係者を交えた開かれた協議の場を」の発出について

④6 月 15 日幹事会のご報告 (日本学術会議の在り方の見直しに関する今後の進め方についての説明)

⑤日本学術会議第 188 回総会のご報告

⑥7 月 24 日幹事会のご報告

⑦8 月 10 日幹事会のご報告

⑧会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の設置及び開催について」の発出について

⑨8 月 29 日幹事会及び記者会見のご報告

⑩会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第 2 回会合の開催について」

⑪9 月 15 日幹事会のご報告

⑫会長メッセージ「第 25 期日本学術会議を終えるにあたって」の発出について

⑬会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第 3 回会合の開催について」の発出について

⑭10 月 27 日幹事会及び記者会見のご報告

⑮会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第 4 回会合の開催について」の発出について

⑯11 月 27 日幹事会及び記者会見のご報告

⑰会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第 5 回会合の開催について」の発出について

⑱日本学術会議第 190 回総会のご報告

⑲会長メッセージ『日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」及び「日本学術会議の法人化に向けて」について』の発出について

⑳12 月 22 日幹事会及び記者会見のご報告

㉑会長談話「令和 6 年能登半島地震について」の発出について

㉒1 月 25 日幹事会及び記者会見のご報告

㉓2 月 29 日幹事会のご報告

(6) 日本医学会・日本医学連合

① [ibunka-m1] の周知

② [all-member] の周知

③日本医学会に関するアンケートの回答

④2023 年日本医学会分科会一覧記事送付

- ⑤日本医学会連合 2023 年度定時社員総会
- ⑥日本医学会定例評議員会出席
- ⑦日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム出席
- (7) 関連団体との共催、協賛、後援の許可
 - ・日本アミノ酸学会主催第7回産官学連携シンポジウム
 - ・「栄養の日・栄養週間 2023」
 - ・第25回ダノン健康栄養フォーラム
 - ・「第37回日本キッチン・キトサン学会大会」
 - ・「第9回タマゴシンポジウム」
 - ・公開講演会「大豆のはたらき in 大阪—人と地球を健康に—」
 - ・第18回日本たまご研究会 (Egg Science Forum 2023)
 - ・日本ハーブ療法研究会第9回学術集会
 - ・第20回高付加価値食品開発のためのフォーラム
 - ・令和5年度食育健康サミット
 - ・お米の未来を考えるシンポジウム
 - ・株式会社食品科学新聞社「Ifia JAPAN 2024-第28回国際食品素材/添加物展・会議 HFE JAPAN 2024-第21回ヘルスフードエキスポ」
 - ・2024 International Garlic Symposium
 - ・一般社団法人日本プロバイオテックス学会「プレ・プロバイオテックスシンポジウム in 名古屋」
 - ・摂食障害全国支援センター「世界摂食障害アクションディ 2023」
- (8) 利益相反 (COI) 関連
 - 会員の COI 状態の報告・開示について管理した。

IV 総会、理事会等の開催状況

(1) 定時社員総会

令和5年 5月 12日 (金) 9:00 ~ 9:53

(2) 理事会

第1回	令和5年 4月 22日 (土)	13:30 ~ 15:12	Web 会議
第2回	令和5年 5月 11日 (木)	15:00 ~ 16:30	
第3回	令和5年 7月 22日 (土)	13:30 ~ 17:09	Web 会議
第4回	令和5年 10月 22日 (土)	9:35 ~ 12:38	Web 会議
第5回	令和6年 1月 27日 (土)	9:28 ~ 13:23	Web 会議
第6回	令和6年 3月 23日 (土)	13:29 ~ 17:37	Web 会議

(3) 業務執行理事打合せ

第1回	令和5年 7月 15日 (土)	13:32 ~ 15:03	Web 会議
第2回	令和5年 10月 7日 (土)	15:35 ~ 17:50	Web 会議
第3回	令和6年 1月 21日 (日)	9:34 ~ 12:20	Web 会議
第4回	令和6年 3月 16日 (土)	9:27 ~ 11:33	Web 会議

(4) 名誉会員・顧問懇談会

令和5年 5月 13日 (土)

(5) 名誉会員・終身会員推薦委員会

令和6年 1月 21日 (日) Web 会議